

トムキンズ、カルヴィン『マルセル・デュシャン』木下哲夫訳、2003 (1996).

・アーモリー・ショー (1913)、正式名称は、「国際現代美術展」(The International Exhibition of Modern Art) であるが、最初の開催地であるニューヨークでは、兵器倉庫を利用して開催されたため、開催された場所から、一般には、アーモリー・ショーと呼ばれる。デュシャンによる「階段を下りる裸体」が騒動となり、彼が渡米するきっかけとなる。

・ニューヨークでの展示の直後、ピカビアはアメリカでほとんど唯一の現代美術ギャラリー「291」にて展示を行う。

・少数のアメリカ人美術家を重要視したステイーグリッツは、デュシャンをはじめ軽視した。1917年には291も閉鎖。アレンズバーグのグループの影響力が大きくなる。伝統に逆らい、都会生活を賞賛する前衛的な運動は、アメリカ的なステイーグリッツよりもデュシャンやピカビアらの影響が大きいともいえる。(170-171)

・ウォルター・コンラッド・アレンズバーグ、20世紀初頭の現代美術蒐集家 (145-)

・ロジェ、ベアトリス・ウッド、デュシャンは独立店「ブラインド・マン」を開催、その小冊子、5月に出版されたの第二号にはステイーグリッツによる撮影の「泉」の写真とリチャード・マット事件と題された無記名の論説記事が掲載 (187-189)

・デュシャンによるアメリカでの最後のレディメイド (お尋ね者、賞金 2000 ドル、1923) は、写真付きの御尋ね者ポスター (254)

・マン・レイ、デュシャン、キャサリン・ドライアーによる「ソシエテ・アノニム」((株)株式が者)の設立 (1920)、第一回展覧会はゴッホ、ブランクーシらをめぐるモダンアート。約20年の間に85の個展。問う団体の公式写真家としてマン・レイは活動。

・1920年、「ローズ・セラヴィ」なる女性をデュシャンは創作する。マン・レイは彼女を撮影。1921年に出版される「ニューヨーク・ダダ」の表紙となり、中には、ステイーグリッツによる女性の足の写真、ダダの名の使用を許可するツァラの手紙、ループ・ゴールドバーグのマンガ、ロリングホーフェン男爵夫人による長編詩+夫人のトルソのヌード写真2点が掲載。(236)

・ステイーグリッツによる写真は美術作品の意義をもちうるかという質問に対して、デュシャンは、それをまったく否定する回答 (251)